

安倍政治への怒り、党への期待次つき

近畿いっせい宣伝

寒さのなか今年最高の553カ所、参加議員349人

14日に取り組まれた近畿いっせい宣伝は、553カ所で、21%の党支部、2,271人、349議員が参加し、3万枚弱のピラを配布しました。宣伝箇所、参加議員が今年最高となりました。安倍政治への怒り、日本共産党への期待の声がたくさん寄せられました。

●「税金はゴーンからとれ。辺野古への土砂投入は許せない」
(大阪・中央地区)

●「僕は仕事柄自民党のみなさんと付き合っていますが、安倍は大嫌い。昔の自民党議員は、もうちょっと地域のことを頑張っていましたよ。うちには2票しかないけど、頑張るって」(東灘・灘・中央地区)

●「頼りになるのは共産党だけや」(奈良・尼辻駅)「公明党はあかん、今度は共産党に入れたる」(近鉄御所駅)



宣伝する京都伏見区選出の馬場紘平府議(左)、山根智史市議

年明けは11日 統一地方選・参院選の年にふさわしく参加広げ、大規模に

年明けの近畿いっせい宣伝は1月11日(金)です。近畿いっせい宣伝は日本共産党支持の大波を近畿は一つでつくり出す取り組みです。統一地方選挙、参議院選挙の年にふさわしく、支部参加を広げ大規模に元氣よく打って出ましょう。

大阪府委員会 が懇談会

カジノより災害対策急げ

15日、党大阪府委員会は「災害から府民を守る」国政・府市政報告懇談会を開催、135人が参加しました。

山下よしき副委員長は過去の災害の検証を行い、防災対策の在り方を転換する必要性を強調。「被災者や住民といっしょに地域の防災上の問題点をチェックし行政に働きかけ続けることが重要。大阪北部地震、台風21号被害の被災者支援活動で大阪は教訓をつくった」とのべ、「選挙は被災者の声で動かすチャンス。被災者・住民の運動で自治体・国を動かす構えでがんばろう」と訴えました。たつみコータロー参議院議員は「国の防災・安全交付金は自治体の要望額に見合っておらず、大型公共事業に予算が偏りすぎている」と指摘。「大規模な停電への関電の対応の遅れの背景には大幅な人減らしによる技術者の不足がある」とのべました。

宮原たけし府議は「松井知事と維新はカジノなど大型開発への思いは強いが、災害被害者への思いが全く欠けていることを府議会での論戦で明らかにした」と報告しました。せと一正市議は台風21号の際、災害対策本部を立ち上げなかった市政を批判。災害時に対応に当たるべき区役所の職員も大幅に減らしすぎて、台風21号の被害調査も終わっておらず、大型開発優先からの市民を守る政策を打ち出さなければ、とのべました。

泉佐野市副市長が参加し、9つの自治体からメッセージが寄せられました。

18年近畿ブロック事務所ニュース

Tel06(6975)9111 Fax06(6975)9115

【府県・地区・地方議員御中】

No. 46(2018.12.19)